

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 12 日現在

機関番号：14602

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25883007

研究課題名(和文) インド、ブラマプトラ川河岸に住む外来住民と在来住民の「洪水とともに生きる知恵」

研究課題名(英文) Technology of "Living with flood" among immigrant and indigenous communities in the Brahmaputra floodplain in India

研究代表者

浅田 晴久 (Asada, Haruhisa)

奈良女子大学・人文科学系・講師

研究者番号：20713051

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はインド北東地方、アッサム州のブラマプトラ川氾濫原に居住するムスリム移民の生業活動を明らかにし、ヒンドゥー教徒の在来民の生業活動と比較することにより、ブラマプトラ川氾濫原の自然環境に適応する技術を評価するものである。調査村落における現地調査の結果、ムスリム移民は在来民が適応できなかった氾濫原の自然環境を積極的に改変し、年間を通して土地生産性の高い生業を行っていることが明らかになった。従来の研究では生産力の違いが周辺住民との対立を生んでいるという見方であったが、生産物の交換を通して在来民との経済関係が保持されているという側面が見られることも分かった。

研究成果の概要(英文)： This study revealed the livelihood pattern of Muslim immigrant people living in the Brahmaputra floodplain in Assam, Northeast India, and compared it with that of indigenous Hindu village to consider the flood adaptation technology in Assam. Muslim immigrants occupy the riverbank floodplain where indigenous Hindu could not utilize the environment before, and they achieve higher land productivity throughout the year by reforming the original topography. Immigrant and indigenous people exchange their products from different ecological environment, and keep economic ties, which suggest the possibility of developing flood adaptation technology in the indigenous community.

研究分野：南アジア地域研究

キーワード：インド アッサム州 ブラマプトラ川 氾濫原 洪水 生業 ムスリム 移民

1. 研究開始当初の背景

インド北東地方に位置するアッサム州は、国内でもムスリム人口の割合が高い州の1つである。ヒンドゥー教徒が住民の大多数を占める中、州内のムスリム人口は年々増加しており、20世紀はじめの1911年には全人口の17%だったものが、2011年には34%にまで達している。アッサム州のムスリムの大多数は、イギリス植民地時代の19世紀末から、ジュート栽培と食糧増産を目的とする政策で東ベンガル(現在のバングラデシュ)から現在のアッサム州に移住してきたベンガリ・ムスリムである。初期は入植政策によって住みついたが、その後は印パ分離独立(1947年)やバングラデシュ独立(1971年)洪水や浸食など自然災害で家を失った住民が多数、アッサム州へ押し寄せることになった。彼らはブラマプトラ川沿いの氾濫原や中州など外来住民が暮らせなかった場所に住みつき、独自の生業活動を展開していると考えられている(図1)。

インドのアッサム州とバングラデシュをつなぐブラマプトラ川流域で恒常的な問題とされてきたのが洪水災害である。気候変動による降水量変化や水需給変化、最上流部の中国で建設されているダムの影響もあり、流域レベルで洪水災害の対策を早急に講じる必要がある。下流域のバングラデシュでは早くから洪水の発生要因や対応策に関して研究が行われてきたが、中流域のアッサム州では体系的に洪水対策が発達してきたとは言い難い状況が続いている。印パ独立以降はバングラデシュとインド・アッサム州の関係が断絶されていることもあり、下流側と上流側で洪水対策に関する情報や知見が共有されることもない。

そこで本研究ではブラマプトラ川の中州や河岸沿いに住むベンガル移民と、河川から離れた地域に住むアッサム州在来住民との間で、生業活動や洪水適応技術にどのような差異が見られるのか明らかにし、「洪水とともに生きる知恵」を両者で共有する方法を模索する。その過程でアッサム州社会におけるムスリム移民の位置づけを捉え直す。



図1 ブラマプトラ川流域図

2. 研究の目的

(1) アッサム州のブラマプトラ川氾濫原に暮らすムスリム移民の生業活動について、土地利用・営農体系・村落構造などを現地調査に基づき明らかにする。

(2) アッサム州の在来ヒンドゥー教徒の村落において、生業活動の他、ムスリム移民との関係を明らかにし、洪水適応技術の移転可能性について考察する(図2)。

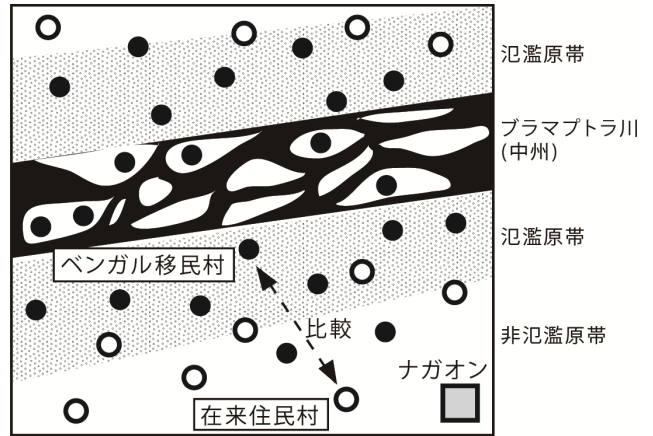


図2 調査村落の立地に関する概念図

3. 研究の方法

アッサム州の調査村落で年2~3回、雨季と乾季に行う現地調査が本研究の中心である。調査村落はアッサム州の中でも特にベンガリ・ムスリムの人口比率が高いナガオン県で選定する。現地調査にはナガオン女子大学地理学科助教サマルジット・ウジャ氏とゴウハティ大学地理学科助教ニッタナンダ・デカ氏の協力を得た。周辺村落との位置関係、経済状況を広域レベルで把握するために、過去と現在の地形図を入手し、2001年度と2011年度の村落センサスも利用する。

4. 研究成果

(1) アッサム州ナガオン県各地で聞き取り調査を行い、ムスリム移民と在来の各グループの居住地を明らかにした。その結果、ムスリム移民は河岸の氾濫原に、在来のヒンドゥー教徒(アホミヤ)は中間の自然堤防帯に、在来の部族民は山麓側に主に居住しているという明瞭な棲み分けが見られた。しかし1950年代頃に作成された地形図にはムスリム移民の村落はほとんど見当たらず、1960年代にブラマプトラ川の本流沿いに堤防が築かれた以降に、ムスリム移民がこの地域に移住してきたことが明らかになった。

(2) 調査村落において明らかになったムスリム移民の生業は、在来のヒンドゥー教徒、部族民の村落にはない特徴がみられた。ここでは過剰な水を克服するために、人為的に切土・盛土して凸凹を生み出し、雨季には屋敷地の高まりの上で洪水を回避し、乾季には地面の下に溜まり続ける水を利用してポロ稲作が栽培される。積極的な土地改変により可

能になった水田養魚が現在の村人たちの主な収入源になりつつあり、アッサム州各地へ出荷することで莫大な利益が生み出されている。

(3) 在来のヒンドゥー教徒の村落では、ムスリム移民の土地利用とはちがひ、伝統的に自然の状態の地形起伏を生かす形で土地利用が行われてきた。雨季に水がたまる後背湿地で稲作が行われ、乾季は水が得られないために農作物の栽培は行われない。しかし彼らはムスリム移民から魚や野菜を購入し、余った雨季稲の残余物を売却することで、ムスリム移民との経済的な関係を保持している。近年はムスリム移民から情報を得て乾季のポロ稲作や畑作を開始する村人も出てきている。洪水適応技術の中でも栽培品目の変更といったソフトな農学的適応はアッサム州の在来民にも受け入れられる余地があることを示唆している。

以上より、本研究の当初の目的はおおむね達成されたと言える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

Haruhisa Asada, Ecology and ethnicity of the Brahmaputra valley in Assam, India, *Journal of Agroforestry and Environment* (査読有) 6(2), 2013, 17-20.

浅田晴久、「インド北東地方の生態環境と多民族社会 - アッサム州ブラマプトラ川渓谷の事例より - 」*広島大学現代インド研究* (査読有) 4, 2014, 29-40.

浅田晴久、「書評. 吉野馨子『屋敷地林と在地の知 - バングラデシュ農村の暮らしと女性』京都大学学術出版会, 2013, 407p.」*東南アジア研究* (査読無) 51(2), 2014, 347-350.

浅田晴久、「書評. Arupjyoti Saikia. *Forests and Ecological History of Assam, 1826-2000*, Oxford University Press, 2011, 388p.」*広島大学現代インド研究* (査読無) 5, 2015, 65-67.

浅田晴久、「バングラデシュの洪水と稲作」*歴史と地理・地理の研究* (査読無) 192, 2015, 40-47.

浅田晴久、「アッサム地域研究の現状と課題」*奈良女子大学地理学・地域環境学研究報告* (査読無) 8, 2015, 31-47.

[学会発表](計11件)

松本淳、浅田晴久「南アジアの気候と農業 (招待講演)」*日本南アジア学会第26回全国大会*, 2013年10月6日、広島大学。

浅田晴久「統計地図でみるインド北東地方の社会経済状況」第9回南アジアにおける自然環境と人間活動に関する研究集会 - インド亜大陸・インドシナの自然災害と人

間活動 -, 2013年10月26日、京都大学。

Haruhisa Asada, Socio-economic condition of Northeast India from the latest statistics, International Networking Project to Share Experiences of Sustainable Development and to Cope with Natural Hazards on the Periphery of Bengal Bay, 2014年1月6日、Yangon.

浅田晴久「インド北東部、ブラマプトラ川渓谷の自然環境と地域社会」*奈良女子大学文学部研究交流集会*, 2014年7月23日、奈良女子大学。

浅田晴久「インド、ブラマプトラ川氾濫原に暮らすムスリム移民の生業」*日本地理学会2014年度秋季学術大会*, 2014年9月20日、富山大学。

Jun Matsumoto and Haruhisa Asada, Effect of rainfall and severe floods on rice production in Bangladesh, International Conference on Climate Change Innovation and Resilience for Sustainable Livelihood, 2015年1月12日、Kathmandu.

浅田晴久「インド・アッサム州におけるムスリム移民が生み出す境界」*JCAS 次世代ワークショップ「ユーラシアにおける境界と環境・社会」*, 2015年2月7日、奈良女子大学。

Haruhisa Asada, Toru Terao and Azusa Fukushima, Livelihood strategies under climate change in Assam valley, India, International Conference on the Water Crisis in the Asia-Pacific Region, 2015年2月12日、Kagawa University.

Haruhisa Asada, Livelihood patterns of the indigenous and immigrant communities in the Brahmaputra floodplain, Assam, 36th Congress Of The Institute Of Indian Geographers & International Seminar On Environmental Changes And Challenges: Local, Regional And Global Perspectives, 2015年2月27日、Gauhati University.

Haruhisa Asada, Toru Terao and Azusa Fukushima, Climate change and grass-root level adaptations in the Brahmaputra valley, Assam, National Seminar on Climate Change, Food Security and Livelihoods, 2015年3月2日、Northeastern Hill University.

浅田晴久、「インド、ブラマプトラ川河岸に住む移民たちの生業活動」第10回南アジアの自然災害と人間活動に関する研究集会, 2015年3月22日、東京工芸大学。

[図書](計2件)

浅田晴久、「インド・アッサム州、稲作体系と気候変動」, 宮本真二・野中健一編、海青社、『ネイチャー・アンド・ソサエティ研究 第1巻 自然と人間の環境史』2014年、

396(297-318).

浅田晴久、「アトライ川」「ティスタ川」「フーグリ川」「メグナ川」「ヤルンツァンポ川」、高橋裕・寶馨・野々村邦夫・春山成子編、丸善出版、『全世界の河川事典』2013年、1040(658-660)。

〔その他〕

ホームページ等

<http://koto10.nara-wu.ac.jp/Profiles/13/0001261/profile.html>

6．研究組織

(1)研究代表者

浅田 晴久 (Asada, Haruhisa)

奈良女子大学・人文科学系・講師

研究者番号：20713051